

名古屋城検定 過去の問題例

〔初級問題例〕

設問 1

下の写真は、名古屋城西之丸にそびえ立つ大木です。何でも樹齢600年以上といわれ、昭和20年の大空襲で幹の半分以上を消失しましたが、現在も元気な姿を見せています。

さて、この大木は何の木でしょう。

- ① 檜（ひのき） ② 榿（かし） ③ 杉 ④ 榲（かや）



設問 2

名古屋城の天守は、大天守と小天守が橋台でつながれ、大天守に入るには橋台を通らねば入ることはできません。

大天守と小天守が橋台でつながれている形式の天守のことを何というのでしょうか。

- ① 複合式 ② 連立式 ③ 連結式 ④ 独立式

設問 3

本丸御殿の対面所は、玄関や表書院の部屋とは違った雰囲気をかもし出しています。対面所の襖（ふすま）などに描かれている障壁画（しょうへきが）は何といいますか。次の中から選びましょう。

- ① 虎図 ② 花鳥（かちょう）図 ③ 名所人物図 ④ 麝香猫（じゃこうねこ）図

【初級問題例解答と解説】

設問 1

正解④

解説 正解は「榧（かや）の木」。名古屋市内で唯一国の天然記念物に指定されています。尾張初代藩主・徳川義直が「大坂の陣」に出陣する際、食したという伝説があり、以来、縁起物として尾張藩の正月の膳を飾ったと言われています。現在は、名古屋城のパワースポットとして人気を集めています。テキストの 93 ページ参照。

設問 2

正解③

解説 正解は「連結式」。天守の平面構成には、単独で建っている独立式、天守に直接櫓を接続した複合式、天守が複数の小天守や櫓とつながっている連立式、そして、名古屋城のように天守から小天守や櫓に、渡り廊下や多聞櫓を渡した連結式があります。テキストの 41 ページ参照。

設問 3

正解③

解説 正解は「名所人物図」。城郭御殿においては、部屋の役割、格式に応じて障壁面に描かれるテーマが決まっていました。玄関は「虎図」、表書院は「花鳥図」、そして側近や親族など、藩主が身近な人間と対面した対面所には「風俗図」。将軍が宿泊した上洛殿には「帝鑑図（皇帝と儒者）」が描かれていました。テキストの 56 ページ参照。